

講義科目名称	応用言語学研究 V	副題	Acquisition of English by Japanese Speakers
英文科目名称	Applied Linguistics V		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
梅田 真理			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	実務経験のある教員等による授業科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目 <input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等  授業で使用する言語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他  アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている
授業の内容 (概要)	学習者の母語は、第二言語の習得・発達に影響を与えると考えられている。本授業では、日本語を母語とする学習者による英語の習得に焦点を当てて考えていく。日本語と英語の特徴を比較し、学習者の母語である日本語の言語的特徴が英語の習得にどのように影響を与えるかについて、日本語を母語とする学習者の英語の習得を検証した研究を紹介する。そして、その影響が実験により実証されているかについて検証する。授業形式は、反転授業の形式を取り、課題として出されたリーディングの内容をまとめ、受講者同士で議論を行ったり、教員を含めた議論を行うなど、双方向あるいは多方向に行われる議論を通して内容を深く理解していく。さらに、受講者のこれまでの自分の英語学習あるいは教育現場での経験も振り返りながら、英語習得における日本語の影響について議論を行なっていく。
授業の目的	第二言語習得と母語転移について基礎的な知識を身につける。また、自分の英語学習あるいは教育現場での経験も振り返りながら、日本語の特徴がどのように英語習得に影響しているのか、認識し、説明する能力を養う。あわせて、これまでの理論的な考え方について考察し、課題を見つけ出す力を養う。国際コミュニケーション研究科の定めるDP1とDP3の達成に関与している。
到達目標	第二言語習得と母語転移について基礎的な知識が身についている。また、日本語の特徴がどのように英語習得に影響するのか、認識し、説明することができる。さらに、受講者相互の議論や教員も含めた議論を通して、これまでの理論的な考え方について考察をし、課題を見つけ出す力をつける。
授業計画	第1回 イントロダクション クラス運営、課題、テキスト等について説明する。 第2回 第二言語習得研究－理論と実証 (1) 第二言語習得研究のこれまでの歴史と理論的な変遷について、振り返る。 第3回 第二言語習得研究－理論と実証 (2) 第二言語習得における母語の影響（母語転移）について考える。特に、「対照分析仮説」と「部分転移仮説」「完全転移仮説」に焦点を当てる。そして、自分の英語学習あるいは教育現場での経験も振り返りながら、母語の影響としてどのような例が挙げられるか、議論していく。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第4回 音声・音韻の習得 (1) 英語と日本語の音声・音韻の違いについて学ぶ。それぞれの言語の特徴について、まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。そして、違いによりどのような影響が出るかが予測されるか考え、議論していく。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第5回 音声・音韻の習得 (2) 英語の音声・音韻の習得に関する日本語母語話者を対象とした実験について学ぶ (Sheldon & Strange, 1982; Brown, 1998, 2000; Ohta, 2004, など)。実験の手法や結果について学生同士で議論し、その後教員を含めて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第6回 形態素の習得 (1) 英語と日本語の形態素（名詞句の区別や形態素）の違いについて学ぶ。それぞれの言語の特徴について、まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。そして、違いによりどのような影響が出るかが予測されるか考え、議論していく。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第7回 形態素の習得 (2) 英語の形態素の習得に関する日本語母語話者を対象とした実験について学ぶ (Inagaki, 2014; Umeda, 2016; Wakabayashi, 1997; Yusa et al., 2014, など)。実験の手法や結果について学生同士で議論し、その後教員を含めて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第8回 音声・語彙の習得：発表 ここまで学んだ内容に関してまとめ、さらにどのような課題があるかを考える。それぞれの発表内容と研究課題について学生同士で議論し、その後教員を含めて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第9回 文の習得 (1) 英語と日本語の文法の違い（疑問文、非対格動詞など）について学ぶ。それぞれの言語の特徴について、まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。そして、違いによりどのような影響が出るかが予測されるか考え、議論していく。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第10回 文の習得 (2) 英語の文法の習得に関する日本語母語話者を対象とした実験について学ぶ (Hirakawa, 1995; Oshita, 2000; Hawkins & Hattori, 2006; Umeda, 2005, 2006, など)。実験の手法や結果について学生同士で議論し、その後教員を含めて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第11回 意味の習得 (1) 英語と日本語の意味（解釈）の違い（代名詞・再帰代名詞・時制・アスペクトなど）について学ぶ。それぞれの言語の特徴について、まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。そして、違いによりどのような影響が出るかが予測されるか考え、議論していく。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第12回 意味の習得 (2) 英語の代名詞・再帰代名詞の習得に関する日本語母語話者を対象とした実験について学ぶ (Hirakawa, 1990; Akiyama, 2000; 吉村・中山, 2014; など)。実験の手法や結果について学生同士で議論し、その後教員を含めて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第13回 意味の習得 (3) 英語の時制・アスペクトの習得に関する日本語母語話者を対象とした実験について学ぶ (Gabriele & Martoharjono, 2005; Gabriele, 2009; など)。実験の手法や結果について学生同士で議論し、その後教員を含めて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第14回 文法・意味の習得：発表 ここまで学んだ内容に関してまとめ、さらにどのような課題があるかを考える。それぞれの発表内容と研究課題について学生同士で議論し、その後教員を含めて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第15回 まとめ 授業で学んだことをまとめ、その内容について、受講者同士や教員を含めて授業で議論していく。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
テキスト	なし

テキスト購入方法	なし
参考文献	授業中に指示する。
成績評価の方法	発表50%、レポート50%
教員への連絡方法	Eメール、Google Classroom、ポータルの何れかを使い、メッセージを送ってください。
履修上の注意	授業中に指示する。
授業外学修情報（予習復習）	1学期の授業外学修時間 合計30時間(授業予習・復習, 課題の解答, レポート/発表の準備・執筆)
学生へのメッセージ	授業中に積極的に議論に参加できるように、これまでの自分の英語学習や教員として観察したことなどを授業の前にしっかり考え、授業中にシェアできるようにしておいてください。